

災害発生時における屋内設置型ラップ式 トイレによる被災地支援体制の再構築

災害医療ACT研究所

災害支援備蓄拠点 (2020年)



各拠点と協定をむすび、
被災地近隣の拠点から迅速に搬入します！

【近畿・中国ブロック】
日本赤十字社兵庫県支部
三木災害救護支援センター
ラップポン100台
多目的テント20張
個人用テント5張
消耗品100箱

【九州ブロック】
福岡大学病院
ラップポン50台
多目的テント20張
個人用テント5張
消耗品50箱

【沖縄ブロック】
日本赤十字社
沖縄県支部
ラップポン20台
消耗品50箱

【中部ブロック】
日本赤十字社
愛知県支部
ラップポン50台
多目的テント20張
個人用テント5張
消耗品50箱

【四国ブロック】
回生病院
ラップポン100台
消耗品100箱

【北海道ブロック】
日本赤十字
北海道看護大学
ラップポン50台
多目的テント20張
個人用テント5張
消耗品50箱

【東北ブロック】
日本セイフティ
花巻LSセンター
ラップポン50台
消耗品50箱

【関東ブロック1】
日本セイフティ
狭山機材センター
ラップポン100台
消耗品100箱

【関東ブロック2】
日本赤十字社
東京都支部 立川倉庫
ラップポン100台
多目的テント37張
個人用テント10張
消耗品100箱

災害支援備蓄拠点 (2025年)

各拠点と協定をむすび、
被災地近隣の拠点から迅速に搬入します！



【近畿・中国ブロック】
日本赤十字社兵庫県支部
三木災害救護支援センター
ラップポン100台
多目的テント20張
個人用テント5張
消耗品100箱

【九州ブロック】
福岡大学病院
ラップポン50台
多目的テント20張
個人用テント5張
消耗品50箱

【沖縄ブロック】
日本赤十字社
沖縄県支部
ラップポン20台
消耗品20箱

【中部ブロック】
日本赤十字社
愛知県支部
ラップポン50台
多目的テント20張
個人用テント5張
消耗品50箱

【四国ブロック】
回生病院
ラップポン100台
消耗品100箱

【北海道ブロック】
日本赤十字
北海道看護大学
ラップポン50台
多目的テント20張
個人用テント5張
消耗品50箱

【東北ブロック】
日本セイフティ
花巻LSセンター
ラップポン88台
消耗品50箱
多目的テント6張
個人用50張

【関東ブロック1】
日本セイフティ
狭山機材センター
ラップポン100台
消耗品100箱

【関東ブロック2】
日本赤十字社
東京都支部 立川倉庫
ラップポン100台
多目的テント37張
個人用テント10張
消耗品100箱

補充後備蓄数

備蓄場所		ラップポン® (補充分追加)	消耗品	ラク アーム®	テント (ダンビー®)
北海道	日本赤十字 北海道看護大学【北海道北見市】	50	300 (50箱)	50	20 5
東北	花巻LSセンター 【岩手県花巻市】	88	180 (30箱)	23	6 50
関東	狭山機材センター 【埼玉県狭山市】	100	600 (100箱)	100	0
	日本赤十字社 東京都支部【東京都立川市】	100	600 (100箱)	100	37 10
中部	日本赤十字社 愛知県支部【愛知県名古屋市】	50	300 (50箱)	50	20 5
近畿・ 中国	三木災害救護支援センター 【兵庫県三木市】	100	600 (100箱)	100	20 5
四国	回生病院 【香川県坂出市】	100	600 (100箱)	100	(25)
九州	福岡大学病院 【福岡県福岡市】	50	300 (50箱)	50	20 5
沖縄	日本赤十字社 沖縄県支部【沖縄県那覇市】	20	120 (20箱)	20	5 3

能登支援において協働した団体との 意見交換会

- 支援に入ったボランティアへの教育が必要
 - ・活動母体がACTで、日本財団の助成による活動であることが理解不足だった
- 消耗品の調達について検討が必要
 - ・能登半島地震では、運よく凝固ポリマーの在庫が最大の時に発災したため欠品なく支援できたが、次の災害時はわからない

被災地における組織体制（新）



連携

各保健医療福祉調整本部での
情報集約と調整

ACT研 現地本部2名

調整

設置予定場所の評価、
設置に係る調整

《設置班1》

ACT研1名
担当業者*1名

《設置班2》

ACT研1名
担当業者*1名

...

《調整班》

ACT研2名

《調整者》

ACT研1名

*日本セイフティ

支援活動の流れ

(1) 支援要否の判断

国内で災害が発生し、屋内設置型自動ラップ式トイレの支援*を要すると災害医療ACT研究所が判断した場合、直ちに支援の可否を決定し、日本財団に報告をする。

- * 断水・停電等により、常設のトイレが使用できない状況。
お年寄り・障害者等、洋式トイレが必要な方への対応。
感染症予防など、衛生的な環境の整備。などを想定

支援活動の流れ

(2) 初動

1. 災害医療ACT研究所は、日本セイフティに支援を要請する。
2. 災害医療ACT研究所会員の派遣要員を募集する。
3. 災害医療ACT研究所は機材運送等の計画を立案する。
4. 日本セイフティは計画実行に向け、備蓄拠点から被災地までの運搬車両を確保する。
5. 災害医療ACT研究所は活動拠点の決定、具体的な計画策定を行う。
6. 日本セイフティ、および災害医療ACT研究所は、相互協力のもと、被災地内もしくはその近傍に、支援物資の搬送拠点となる備蓄場所を確保する。
7. 災害医療ACT研究所活動調整担当者は、被災自治体（県、市町）にラップポンの設置の許可、および設置に関する調整を行うとともに、災害救助法に基づく消耗品の求償の説明による了承をうる。
8. 日本セイフティからのボランティアに対して、支援活動の意義やスキームについて現地で研修を実施する。

支援活動の流れ

(3) トイレの設置

1. 災害医療ACT研究所は、被災地の保健医療福祉調整本部等の関係者と、トイレ設置の要否について協議する。設置の要否は、衛生環境、感染症、要支援者、ライフラインの状況等を総合的に判断する。設置場所は避難所、医療機関、介護福祉施設等とする。
2. 災害医療ACT研究所は、設置要と判断された場所の関係者と協議の上、トイレを設置する。
3. 災害医療ACT研究所は、トイレの設置と維持、および回収に係る事項を専用回線を用いて調整する。

支援活動の流れ

(4) トラブル対応・消耗品の補充

1. 日本セイフティは、機器使用上のトラブル及び消耗品補充等の対応を行う。
2. 災害医療ACT研究所は、日本財団と協議し、追加の助成金について調整を実施する。

支援活動の流れ

(5) 回収と再備蓄

1. 災害医療ACT研究所は、日本セイフティと協力し、簡易トイレの回収を行う。
2. 日本セイフティは、回収された機器の整備を行う。
3. 災害医療ACT研究所は、日本財団と協議し、来たる災害に備え、備蓄拠点に整備品を備蓄する。